

「三中校長脳卒中で倒れちゃった⑨」

標題のシリーズのその後をよく訊かれますので久しぶりに書きます。令和3年7月20日号以来ですので、最初に経緯を少し振り返ります。

【2020年7月に倒れて、12月に退院。1月に復帰！】

7月23日バスケ部の練習試合の直前、貝塚五中の体育館で私は脳出血を起こし、救急車で運ばれました。2週間の入院後、リハビリ病院に転院。当初社会復帰は無理との医者診断でしたが、リハビリに邁進し何とか杖なしで歩けるようになり5か月後に退院、翌年1月4日に公務に復帰できました。詳しくは右下のQRコードで本校HP「校長より」から「三中校長脳卒中で倒れちゃった①～⑧」をご覧ください。

【バスケットボールの審判員になる】

私はバスケ未経験なのに顧問になったので、生徒の方が自分より知識も多く、そのコンプレックスで自信を持って指導できませんでした。

中学校の多くの部活は、公式戦で顧問が審判をします。どのスポーツも審判は難しいですが、特にバスケは、当時、公式戦でも顧問から審判へのクレームが多く、ひどい時は両チームから責められる（今はそんなことはありません）ので、嫌がる先生が多かったのです。

未熟だった私は「審判ができるようになったら、部活の生徒が指導者としての自分を尊敬し、言うことを素直に聴いてくれるのではないか」という邪（よこしま）な気持ちを抱き、審判の勉強を始めました。鞆にルールブックを入れ、少しでも時間があれば読みました。平日の放課後は教員の仕事があり、土日はほぼバスケ部の練習があるので、審判の練習は積極的に練習試合に行き、たくさん審判させてもらい、試合後、審判のアドバイスを聞きに行くことがメインでした。私は初め、下手な審判だったので、そのことで勝敗を左右することも多く、よく怒られました。経験を積むうちに、次第に審判依頼も増え、部活のないテスト前の休日や、夜の一般のチームの試合の審判にも行くようになりました。大学生や社会人のクラブチーム等では、審判員を脅したり試したりするような人もいました。いつもビビりながら笛を吹いて（審判をして）いました。

数年かけて修行をし、なんとか、日本公認審判の資格を取りました。

とても嬉しかったことを覚えています。今はS・A・B・C・D・Eの6階級ですが、私の時代にはAA級（今のS級）、A級、日本公認（今のB級）の3種類しかありませんでした。この頃には、邪な気持ちは消え、審判技術の向上によってバスケットボールの理解が深まる実感がありました。これをきっかけにバスケットボール指導員（今のC級コーチ）の資格も取りにいき、本格的なコーチングの勉強も始めました。

最近の後進、特に貝塚の小学校の教員の方が審判できるようになるようお手伝いしたいと思い、教育委員会出向中の2019年12月、JBA公認3級審判インストラクターの資格を取得。ようやく学校に復帰し、いよいよこれから、という時に「倒れちゃった」のでした。

資格更新には、毎年、講習の受講、ルール・実技・持久力のテストの合格が必要ですが、コロナ禍の間、多くのテストは未実施でした。

今年5月、府の中体連審判長が、私の体を心配して、連絡をくれました。「テストどうしますか」「もちろん受けます」私は答えました。

講習や他のテストは全てクリアし、いよいよ2022年11月3日、堺市立美原体育館で、持久力テストです。音楽が流れる中スタート。私は50歳以上なので20mシャトルランを規定時間で61回できれば合格です。左足に力が入らないので右足を強く蹴って前に進みます。他の人にすれば歩くようなスピードですが、私はついていくのがやっ

と。10回を超えました。1段階スピードがアップ、左足のつま先が床に引っかかり、皆から遅れはじめ、必死に床を蹴ります。13本目のゴールで、審判長が両手を挙げて私の前に立ちました。「荒木さん、もう十分です」。皆より10m以上遅れていました。C級へ降格決定です。

苦勞して取得した資格を失うことはつらいことでした。しかし不可能だと分かっていたても、最善をつくし挑戦することができたことで、想像以上に爽やかな満足感の中、帰途に着くことができました。

【不定期コラムNo.39】へつづく



フィットネステストで走る私

第三中学校ホームページ

では、子どもたちの様子やお知らせなど情報発信しています。ぜひご覧ください。これまでの不定期コラムも「校長室より」のコーナーでご覧いただけます。

<http://www.kaizuka.ed.jp/dai3-jh/>

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP

貝塚第三中学校HP

HP